

## 水道水が飲める国

私たちは毎日、たくさんのお風呂や料理、飲料水など。私たちがとつて水はかせないものだ。水道の蛇口をひねると、きれいな水が出るのは当たり前だ。私の父には、オーストラリア人のマイケルという友人がいる。日本に来たときには必ず遊びにきてくれる。昨年夏、私が水道の水をコップいっぱいに入れて飲むのを見たマイケルに「その水きれいな？飲んで大丈夫？」と言われて驚いた。場所にもよるが、オーストラリアでは水道水を飲むときには煮沸したり、浄水器に通すことが多いのだ。また、お風呂につからずシャワーのみに止まる。以前、マイケルのお母さんがうちに泊まった時、残り湯を使って洗濯できる洗濯機に非常に感動していた。このような体験をきっかけに、日本と世界

生駒市立上中学校 二年

土松 萌夏

の国々の水事情について考え、調べてみようと思った。世界で水道水が飲める国は日本以外で、オーストラリア、フィンランド、スウェーデン、オーストリア、アイスランド、ニュージーランド、カナダ、南アフリカ共和国、アラブ首長国連邦、モザンビーク、レソト、クロアチア、スロベニア、アイルランドの十五カ国だ。オーストラリアでは全般的に、日本と同じ程度の軟水で概ね水道水は飲むことはできるが国土が広いため国のため、地域により水質に差がある。また、水質が安定していない場合は大雨の後には茶色い水が水道から出ることもあるそうだ。フィンランドでは、およそ十八・八万個もの湖がある。そのため、国内各地の水道でその恩恵が受けられ、赤ちゃんのミルクにも使用できる軟水だ。スウェーデン

ンの水道水も大変良い水質で、日本のようなカルキ臭がないそうだが、水道水には一定の基準があり、水源とされる一定区域を保護して汚染しないようにすることで敢えて不必要な消毒や薬剤の添加をしないようにしているという。オーストリアでは、アルプスからの“湧き水”が水道から出ており街には公共の水飲み場が数多く設置されている。アイスランドでは人口が少く広大な自然である火山や氷河に囲まれた島国であるため、良質な水が簡単に手に入りやすい。ニュージーランドやカナダでは、虫歯を防ぐ目的で水道水にフッ素が添加されている。どちらも山の近くの街は良い水質の水通水を飲める。南アフリカ、アラブ首長国連邦、モザンビーク、アイスランドは水質的に問題はないが、化学物質や水道設置の老朽化による汚染や水漏れ貯水槽の清掃がいき届いていないなど、衛生に不安があるため煮沸する必要がある。

日本の水道水は高度浄水処理されていて、「水道法」という法律で水質基準が定められているため蛇口をひねると出てくる水を飲料水として使うことが可能だ。

水道水が飲めない国には様々な理由がる。一つは、面積が広い国はその分、水道のインフラ整備が大変だからだ。もう一つは、日本のように高度浄水処理をするのにかなりのコストがかかるからだ。また、諸国では水道設備を整えるよりも、安全なペットボトルにしておいて売るのがコストが安く済むため、あえて水道設備を導入しない国もあるそうだ。

水は限りのある資源だ。世界の中でも日本の水はすばらしい。それに、水の基準も高い状態を守られていることを知った。だから、一人一人が水の大切さについて意識をむけるべきだと私は思う。

これから、水の出しっぱなしや無駄遣いせず、つねに節水を心がけていきたい。